



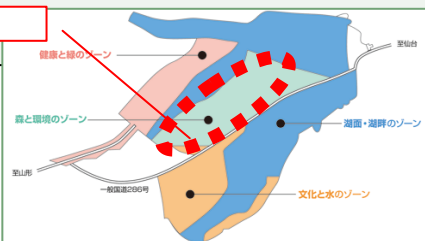
みちのく森の楽校(だより) 第3回

みちのく公園「里山地区」とは？

里山地区

公園区域の中央の釜房湖に突き出した半島で、雑木林とスギ・ヒノキの植林地におかれた里山です。豊かで特徴的な自然環境が多く残されていることから、これらの保全・活用と適切な利用に留意しながら平成26年の開園を目指しています。

これまで、ツリーハウスづくり、樹林地管理や観察会など、さまざまな活動を行ってきました。今年度は、7回シリーズの親子会員活動を行っています。



10月19日(土) 晴れ 午前：「キノコ観察会」 午後：「ドングリの里親になろう！」

今日は第3回の会員活動。午前中は、自然共生園でキノコ観察会をしました。前の日に下見をした所、里山にほとんどキノコが生えていなかったため、共生園での観察会に変えました。

午後は、里山に落ちているドングリを拾って雑木林の苗作りをする「ドングリの里親」。会員に加えて、事前予約のお客様も一緒に参加したイベントでした。

キノコ観察会

自然共生園は、農園、コナラ林、半自然草原、湿地とさまざまな環境があります。歩きながら、見つけたキノコを採って、カゴに入れました。



同定

採ったきのこを、同じ形や似ているものでグループにまとめ、何のキノコか、同定をしました！

今年は秋になっても気温が高いため、地温が下がらず、秋のキノコがまだ出ていないのです。夏のキノコは終わりかけ。そのため、あまりキノコの種類がありませんでした。



キノコとは？

きのこは「植物」でも「動物」ない「菌類」です。菌類の中でも胞子をつくる器官(子実体)が大型のものを「きのこ」と呼んでいます。

日本の野生きのこは、約2,000種類以上あると言われています。

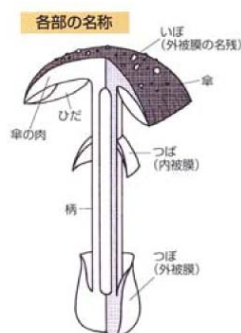
野生きのこは、養分の吸収方法によって区分されます。

(1) 腐朽菌タイプ

枯木や落ち葉などを分解して養分を吸収するきのこ

(2) 菌根菌タイプ

樹木の根などに菌根をつくり、樹木と共生して養分を吸収し、その代替えとして樹木の養分吸収を助けるきのこ



こんなキノコがありました！



ドングリの里親になろう！

昔の里山は、燃料にするたきぎを拾ったり、炭焼きをしたり、村のみんなで管理していました。薪にする雑木を切ったり、肥料にする草を刈ったりすると、若い元気な木が生え、明るい林になります。

しかし、今は暮らしが変わってしまって、雑木を切ったり草刈りをしなくなったので、樹木が大きく育ちササも茂って暗い林になってしまいました。その木を切っても、新しく芽吹くことができないのです。

そこで、里山地区では、昔のような若い林を復活させるために、ドングリを拾って苗をポットで育て、大きくなったら里山に植え付ける活動をしていきます。

■活動の流れ

- ・、里山地区でドングリなどの雑木の種を集めて、牛乳パックなどに植えて持って帰り、2年間、苗を育てます。
- ・日あたりのよい場所に置き、ドングリや苗が乾かないように、1週間に1～2回の水やりをします。
- ・育てた苗を里山に持ってきて、2年後の秋に植え付けます。



暗い林の雑木を切った場所に新しいどんぐり苗を植え、



昔の里山のような若い林を復活させます！

イベント準備

ドングリを植え付ける牛乳パックは、ボランティアを始め、公園関係者の協力でたくさん集めました。ざっと300個くらい！

牛乳パックの底には水抜き穴をあける必要があるので、午前中からボランティアが準備をしました。



ドングリ集め

樹林地に入って、ドングリを探しました。今年は、残念なことに、生り年ではないのです！それでもいくつか拾えました。あらかじめ、風の草原で拾っておいたドングリも使いました。



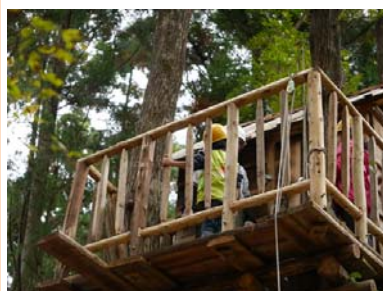
植え付け！

底に穴をあけた牛乳パックに土を入れ、ドングリを2～3個、底に置き、2cm位の厚さで土をかぶせました。現場の土を使うのは、菌が重要だからです。



里山で遊ぼう！

ドングリの苗づくりが終わったら、楽しみにしていた里山遊びです。ツリーハウスに登ったり、遊具で遊んだり、思い思いに楽しみました。



ツリーハウスに登っています。



窓からこんにちは



ターザンロープ



ハイジのブランコ